



Title	大学生の貧困観についての調査報告
Author(s)	由水, 瞳
Citation	教育福祉研究, 24, 85-96
Issue Date	2020-02-27
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/76883">http://hdl.handle.net/2115/76883</a>
Type	bulletin (article)
File Information	080-0919-6226-24.pdf



[Instructions for use](#)

# 大学生の貧困観についての調査報告

由 水 瞳

## 1. はじめに

本稿は、2018年に大学生を対象に行った貧困観に関するアンケート調査の報告である。

これまで、貧困観は、科学研究費助成事業「現代日本の『貧困観』に関する実証的研究—アメリカにおける研究との対比の中で」(研究代表:青木紀)において研究されてきた。2004年から2006年にかけて、大学生や勤労者層(民生委員や連合労働組合員)に対しアンケート調査とインタビュー調査が行われた(青木2010)。そのアンケート調査票の鏡文では、貧困に対する人々のイメージや考え方、認識といった貧困観は、社会福祉が進むべき方向を左右するものであると述べられた(青木2005)。また、シングルマザー(岩田2007)、社会福祉援助者(岩田2008)へのアンケート調査、障害者(藤原2008)へのインタビュー調査も行われている。

その貧困観調査の時期から本調査までには十年あまりが経過しており、その間の貧困という言葉を取り巻く状況の変化とともに、人々の貧困観も変わってきている可能性がある。今回の調査は対象が大学生のみと限定的ではあるが、最近の貧困観を知る一つの資料となるよう、その結果を報告する。

## 2. 調査の概要

### (1) 調査内容

本調査の内容は、回答者の属性(学年、性別、専攻、現在の暮らし向き、15歳の頃の暮らし向き)、貧困のイメージ、貧困にある状況のイメージ、貧困にある人々がいる理由、貧困から抜け出す方法、日本における貧困問題の認識、本アンケート

の「貧困」ということばに感じた違和感、相対的貧困ということばの認識についてである。[資料]が本調査で使用した調査票である。

調査票の作成において主な参考としたものは、青木紀が2004年から2006年にかけて行った貧困観調査である。本調査は、属性についての項目とアンケートに対する意見の自由記述を除く7つの質問項目のうち、問10「社会に『貧困にある人びと』がいる理由はなぜだと思いますか」、問11「『貧困から抜け出す』方法として、以下の意見をどう思いますか」、問13「あなたは、このアンケートで使われた『貧困』ということばに違和感を覚えましたか」は青木が調査で用いた項目と同じである。問9「現代の日本社会で生きることを前提に考えて、貧困とはどのような状況を言うと思いますか」については青木の調査から一部項目を減らしており、問8「『貧困』ということばを聞いて(見て)、以下の内容を思い浮かべましたか、あるいは思い浮かべますか」については項目数を減らすとともに「(3)現在の日本で見られる様子や生活」という質問を本調査独自に加えた。

また、問12と問14は、青木の調査にはなく、新しく加えた部分である。問12のうち、「(1)現在の日本において貧困は広く存在している」は、Eurobarometer<sup>1)</sup>のうち、2010年に行われたSpecial Eurobarometer 355 “Poverty and Social Exclusion” 調査の中の「And would you say that poverty in (OUR COUNTRY) is...? (Widespread, Not widespread, Don't know)」(EC 2010: 12)という設問を用いた。また、「(2)現在の日本において貧困を軽減していくことは重要だ」という設問については、埴(2007)の紹介による、アメリカカトリック司教会(the United States Conference

of Catholic Bishops) によって1970年に開始された「人間発達のためのカトリックキャンペーン (Catholic Campaign for Human Development)」の、「貧困の脈拍 (Poverty Pulse、以下はPovertyPulseとする)」調査のWave IV (2004)、V (2005)、VI (2006)のうち、「アメリカの貧困を削減あるいは解消することは、どのくらい大事だと思いますか」<sup>2)</sup> (埴 2007: 16-17) という設問を用いた。

問12「(3)貧困の問題は自分と何らかの関わりがあると思う」、「(4)テレビやネットの記事などのマスメディアを通じて、日本の貧困の問題について見聞きする機会がある」、問13「あなたは、『相対的貧困』ということばを知っていますか」は独自に作成した項目である。貧困を身近に感じるかどうか、普段マスメディアから貧困の情報を取り入れるかどうか、「相対的貧困」ということばを通して知識として貧困を知っているかどうか、他の貧困観に影響するのではないかと考え、作成した。これらの分析については、別の機会に行う

こととした。

## (2) 調査の手続き

本調査は、北海道にある3大学(私立大学2校、公立大学1校)829名に対して、アンケート用紙を複数の授業内で配布・回収するかたちで行った。一部の授業は、福祉に係る授業の第1回もしくは第2回であった。調査期間は2018年9月～10月である。

## 3. 調査結果

### (1) 回答者の属性

回答者の属性について、学年は1年生が最も多く62.5%、2年生が29.9%、3年生が5.1%で、1年生から3年生までがほとんどである(表1)。性別では男性45.5%、女性53.1%、答えたくないが0.1%だった(表2)。専攻は、理系が43.8%、文系(福祉系以外)が20.6%、文系(福祉系)が32.3%である(表3)。現在の暮らし向きは、「普通」の回答が49.7%と半数近くを占めており、「ややゆとりがある」が26.4%と次に多かった。「や

表1 学年

	割合 (%)
学部1年生	62.5
学部2年生	29.9
学部3年生	5.1
学部4年生	0.7
その他	0.4
無回答	1.4
合計	100.0

表2 性別

	割合 (%)
男性	45.5
女性	53.1
答えたくない	0.1
無回答	1.3
合計	100.0

表3 専攻

	割合 (%)
理系	43.8
文系(福祉系以外)	20.6
文系(福祉系)	32.3
無回答	3.3
合計	100.0

表4 現在の暮らし向き

	割合 (%)
大変ゆとりがある	9.3
ややゆとりがある	26.4
普通	49.7
やや苦しい	11.3
大変苦しい	1.7
無回答	1.6
合計	100.0

表5 15歳の頃の暮らし向き

	割合 (%)
大変ゆとりがある	18.3
ややゆとりがある	30.0
普通	41.7
やや苦しい	7.5
大変苦しい	1.0
無回答	1.4

や苦しい」は11.3%、「大変ゆとりがある」は9.3%と、それぞれ1割程度である。「大変苦しい」の回答も1.7%あった(表4)。15歳の頃の暮らし向きは、「普通」の回答が41.7%、「ややゆとりがある」が30.0%、「大変ゆとりがある」が18.3%で「普通」かそれ以上の暮らし向きがほとんどである。「やや苦しい」は7.5%、「大変苦しい」は1.0%と少なかった(表5)。

**(2) 貧困のイメージと貧困の状況**

貧困ということばからイメージされるもの(表6)は、「テレビや新聞等で知る途上国や戦災国の生活」が最も多く84.6%、続いて「戦前や敗戦直後に多く見られた日本の生活」も67.9%と高く支持される一方、「現在の日本で見られる様子や生活」は34.7%と支持する回答は少ない。「その他」の回答では、「ホームレス」、「ひとり親世帯」(シングルファザー・マザー、母子世帯等の回答を含む)、「ホームレス」、「生活保護」については複数名から回答があった。また、「アフリカ」「中世ヨーロッパ」など外国や昔の時代についての意見や、

「精神的貧困」「心的貧困」などに関係する意見も比較的多かった。一つの時代や国、また経済的、物質的な意味での貧困に限らず、「貧困」という言葉からはさまざまなものがイメージされていることがうかがえる。

貧困にある状況の具体的なイメージについて(表7)は、「医療機関に必要なときにかかれない」(87.9%)、「水道や電気およびガスがない」(82.1%)、「健康的な食生活ができていない」(73.5%)と、命に関わるような項目が「貧困である」と判断される割合が高かった。一方で、「緊急時に必要な最低限の貯金がない」(56.3%)、「住宅に暖房設備がない」(51.0%)、「住宅にお風呂がない」(44.1%)などは半数程度の支持にとどまり、意見の分かれているところである。また、「社会あるいは地域とほとんどつながりがない」(21.8%)、「一年に一度程度のレジャーや旅行をする金銭的余裕がない」(16.6%)といった項目は「貧困である」とは見なされにくかった。

表6 貧困のイメージ

(%)

	はい	いいえ	無回答	無効回答
テレビや新聞等で知る途上国や戦災国の生活	84.6	10.0	5.3	0.1
戦前や敗戦直後に多く見られた日本の生活	67.9	26.8	5.3	0.0
現在の日本で見られる様子や生活	34.7	59.7	5.4	0.1
その他	11.3		88.7	0.0

※無効回答:「はい」「いいえ」の二重回答(1票ずつ)

表7 貧困の状況

(%)

	貧困である	必ずしも貧困とはいえない	わからない	無回答
医療機関に必要なときにかかれない	87.9	5.8	0.8	5.4
水道や電気およびガスがない	82.1	11.7	1.1	5.1
健康的な食生活ができていない	73.5	20.1	0.8	5.5
緊急時に必要な最低限の貯蓄がない	56.3	35.3	3.0	5.3
住宅に暖房設備がない	51.0	41.7	2.2	5.1
住宅にお風呂がない	44.1	48.3	2.5	5.1
社会あるいは地域とほとんどつながりがない	21.8	64.5	8.1	5.5
一年に一度程度のレジャーや旅行をする金銭的余裕がない	16.6	74.5	3.5	5.3

## ◎表6 「その他」の回答

高齢者の貧困／若者の貧困／母子世帯、子どもの貧困／ひとり親世帯（シングルファザー・マザー、母子世帯等の回答を含む）（3名回答）／ホームレス（8名回答）／生活保護（2名回答）／子どもを育てる親／家族の生活／アフリカの人／生きていく中で必要となる物資を十分に揃えられないこと／お金がなく満足にお金を使うことができていない全ての人々／アメリカ・中国で見られる超格差社会／先進国のスラム街／難民キャンプ、紛争／アフリカ諸国の食問題／中世ヨーロッパにおける下層階級／流行病の流行したヨーロッパ／ACのCM／物語／外国の貧困 100人の村の本の内容／子供の貧困という講義タイトル／小・中の同級生の一部／親のお金で高校や大学に通えない子ども／金はあるが時間の無い（睡眠や食事）社会人／大学院卒の人材が奨学金ローンで貧困におちいる。／現在の日本で見られる様子や生活は格差がすごいと思うので、一概には思い浮かばない。／時代や国に関係なく、どこもこうであったと思った。／精神的貧困／心的貧困 知識に対する尊重の欠如／余裕の有無（精神的なものも含む）

／それらが起こる社会問題によって起きた精神的なもの、それを解決するのに頼るものがないあるいはできないという人間関係のと、理解していないで先入観等で不利な人を差別するもとに知識と理解のとほしさ。

## (3) 貧困の原因と貧困から抜け出す方法

社会にいる人びとが貧困に陥った理由（表8）として、「社会にたくさんの不公平があるから」（52.1%）は約半数に、「経済発展に伴う避けられない現象だから」（29.1%）は3割程度に支持されていた。一方で、「怠惰や、自制心の欠如があったから」（5.4%）や「その人たちが不運であり続けたから」（3.4%）といった理由を選択した人は少ない。前の二つを「社会的要因」、後の二つを「個人的要因」とそれぞれ合わせて考えると、社会的要因を選択した人は8割に上るが、個人的要因は選択する人が1割未満と、前者が圧倒的に支持されていることが分かる。なお、無回答率が他の質問項目よりも多く、その理由の一つとして、回答者が適切と考える回答が用意されていなかったということが二重回答の多さや自由記述欄の意見（「問10 2と3までは選べるけどそれ以上が選

表8 貧困の要因

(%)

個人的要因	その人たちが不運であり続けたから	8.8	3.4
	怠惰や、自制心の欠如があったから		5.4
社会的要因	社会にたくさんの不公平があるから	81.2	52.1
	経済発展に伴う避けられない現象だから		29.1
無回答			9.5
無効回答			0.5

※無効回答：「社会にたくさんの不公平があるから」と「経済発展に伴う避けられない現象だから」の二重回答（4票）

表9 貧困から抜け出す方法

(%)

	強く思う	思う	強く思う +思う	思わない	わからない	無回答
我慢して節約した生活を送り、人より働くなど、結局は個人の頑張りなどの努力による	15.8	45.0	60.8	25.6	7.8	5.8
個人が「貧困から抜け出す」には結局はその家族や親族の助ける以外に方法はないと思う	3.1	23.9	27.0	55.5	11.6	5.9
もっとやり直しのできる機会を増やすことが「貧困から抜け出す」ことを促すと思う	26.2	46.6	72.8	12.1	9.5	5.7

表 10 日本における貧困問題に対する意識

(%)

	強く思う	思う	強く思う + 思う	思わない	わからない	無回答	無効 回答
現在の日本において貧困は広く存在している	21.1	44.6	65.7	20.3	8.1	5.9	0.0
現在の日本において貧困を軽減していくことは重要だ	40.0	45.2	85.2	4.7	4.1	5.9	0.0
貧困の問題は自分と何らかの関わりがあると思う	12.3	39.6	51.9	25.1	17.0	6.0	0.0
テレビやネットの記事などのマスメディアを通じて、日本の貧困の問題について見聞きする機会がある	15.1	51.5	66.6	18.9	8.3	6.0	0.1

※無効回答：「思う」と「思わない」の間に○をつけて回答（1票）

表 11 「貧困」ということばに感じた違和感

(%)

はい（感じた）	感じなかった	無回答
12.5	79.3	8.2

べない」「問 10 の選択肢に『いずれでもない』が欲しい。」など）から推測される。

貧困から抜け出す方法（表 9）については、個人の頑張り、家族や親族の助け、やり直しのできる機会の 3 つについて、それぞれで項目を分けて尋ねた。これらのうち、「強く思う」「思う」の回答の合計が最も多かったものは「もっとやり直しのできる機会を増やすことが『貧困から抜け出す』ことを促すと思う」（72.8%）であった。また、「我慢して節約した生活を送り、人より働くなど、結局は個人の頑張りなどの努力による」（60.8%）も過半数が同意している。一方で、「個人が『貧困から抜け出す』には結局はその家族や親族の助ける以外に方法はないと思う」（27.0%）についてはあまり同意されなかった。

#### 4. 日本における貧困問題の認識

日本における貧困問題に対する意識（表 10）に関わって、いくつかの内容について尋ねた。

まず、「現在の日本において貧困は広く存在している」と「現在の日本において貧困を軽減していくことは重要だ」という質問について、「強く思う」もしくは「思う」と回答した割合は、それぞれ 65.7%、85.2%であった。「テレビやネットの

記事などのマスメディアを通じて、日本の貧困の問題について見聞きする機会がある」についても、66.6%と半数以上が同意していた。一方で、「貧困の問題は自分と何らかの関わりがあると思う」かどうかについて、「強く思う」「思う」と回答した人は半分に満たなかった。

#### 5. 貧困ということば、アンケート全体について

アンケート内の「貧困」ということばに感じた違和感（表 11）については、違和感がなかったという回答は 79.3%であり、12.5%の人は違和感があったと回答していた。違和感があった理由については、貧困の定義のあいまいさについてや、貧困には「精神的貧困」もあるとする意見が目立った。また、自分とのなじみの薄さ、差別的ニュアンスを指摘する意見などもあった。

最後に、相対的貧困ということばを知っているか（表 12）を尋ねると、「ことばを知っており、意味もおおよそ理解している」（25.9%）と「ことばは知っているが、意味は理解していない」（26.8%）がそれぞれ四分の一程度であり、「ことばも意味も知らない」（39.8%）が 4 割近くという結果だった。

表 12 相対的貧困ということばの認識

(%)

ことばを知っており、意味もおおよそ理解している	25.9
ことばは知っているが、意味は理解していない	26.8
ことばも意味も知らない	39.8
無回答	7.5

## ◎表 11 「はい」の理由の回答

○「貧困」の定義について（あいまい・分からない・広い）

貧困は何を指すのか／何をもって貧困とするのか／何が貧困であるのかよくわからない／どこからが貧困なのか分からなくなった。／どういう方面での貧困なのか分からなかった。／貧困の定義がわからない／貧困の定義がわからない／明確な定義がわからなかったから。／貧困の定義がよくわからなかったから／貧困の定義があいまいだと感じた／貧困の基準が良く分からない／貧困の基準がいまいち分からない／貧困の基準がいまいち分からないははっきりしないから／「貧困」の定義が広く感じたから／一般に使用される意味内容より広く使われていた／どの程度広い意味で用いているのかわかりづらいと感じた。／広義でとるか狭義でとるかによって意味も大きく変わると思うから。／相対的貧困なのか絶対的貧困なのか分からない

○貧困の定義について（自分の考えとの相違）

自分の貧困の意識とあっているか分からなかったから。／自分が考えていた貧困と違う場面で使われている／自分が考えていた貧困の定義と違う使われ方をしている／今まで聞いていた貧困とは別な意味での「貧困」もあるのかなと思ったから。／貧困に対してのハードルが低いと感じた（その程度で貧困というのかと思った）／どの程度が貧困と感じるか自分でもわからなくてモヤモヤした。

○貧困の定義について（個人・社会による）

人によって貧困の定義が違うから／貧困の定義が個人によるものだったから／貧困ってその人によって感じ方は違うと思うので、少し違和感を覚えた／貧困といっても意味が広く、また人によ

って貧困の感じ方はちがうから／個人の考えに基づき、すごく相対的なものであるため。／個人から見た貧困と社会から見た貧困はずれが生じる場合もあり、一概には定義できないから。／比較対象が無いために、自分で基準を今決めたから。／貧困の基準は育ってきた環境や、その人のおかれた社会に大きく関係すると思ったから。／「貧困」とは普通の生活の基準をどこにするかでかわってくるものであり、とてもあいまいだと思った。

○「貧困」と「貧しい」「貧乏」など、他のことばとの違い

“貧しい”という言葉とは意味が違うのかな？と思った。／貧困という言葉は発展途上国のイメージであり、日本では「貧乏」というイメージが強かったから。／貧困と聞いても例えば「困窮」との区別がつかないから

○精神的な意味での貧困

精神的な貧困があるということ／貧困は金銭だけではないから。心も重要／貧困とは経済的面で測るのか、幸福的な観点から見るのかが微妙な気がしたから／生活困難だけでなく事件も金銭の貧困だけでなく、心の貧困もあると考えており、貧困という言葉には複数のものが関わっているのではと考えたからです。／精神的、物質的に不足していることを全て「貧困」にまとめられていた気がしたため／経済的貧困ではなく社会的貧困という考え方をしていますね／金銭的な面と、精神的な面などを通して考えたときに貧困かどうかがわかるのか。貧困の意味に違和感／貧困が金銭的なものか、社会的なものか区別がつきにくい／金銭的なことばとして使われているのか、精神的な面で用いられていることばなのかわからなくなった。／金銭的なことでないことにも「貧困」という言葉があったため。／たとえ、金銭的余裕がなくて

も幸せな人もいるので、「貧しいから困っている」というわけでは100%ないと感じたため／いくら金持ちでも心が虚無の人もいるから。／貧しくても困っていなければ貧困ではないのかわからない

#### ○日本と世界における貧困

日本は比較的裕福であると感じているから。／食べ物や衣服など当たり前で取得できている人々がほとんどだから。／日本についての貧困の記述が多く見られたが、生活保護のあるこの日本で貧困はないと思ったから。／日本に貧困は少ないから／日本が貧困だとは思わないから／現在の日本が、戦後の日本や途上国と比べると貧困とは言い難いから／日本における貧困と、途上国における貧困には差がある（日本の「貧困」は途上国からしたらそれほど貧困ではない）と感じたから。／日本の全体的な裕福度合いから、この程度で貧困というのは他国の貧困地域に失礼である。／貧困と聞くとまず思い浮かべるのは、途上国の子供達でした。しかし、このアンケートでは日本での貧困についてのことが多かったから。／アフリカの人だから

#### ○普段の生活との関係の薄さ・なじみの薄さ

普通の生活の中でなじみのない言葉だから。／普段の生活で貧困という言葉を書く機会がないから／普段生活をしていて聞く機会がないから／最近あまり考えたことがなかったから。／普段あまり意識していない言葉だから／「日本」と「貧困」という言葉があまり関係のあることだと思っていたから。／日本ではそういう話はたまにしか聞かないから／テレビで取り上げられるレベルの家庭を見たことがない／イメージが湧かないから（具体的に）／自分で同じ状況になったことがなく、イメージする貧困とは違ったから。／過去も現在も縁遠く、また将来なるとも思わないから。

#### ○差別的ニュアンス

言葉にしにくいのが、差別的なニュアンスを感じてしまう。／一般人なのになぜか差別しているように感じる／くり返し使われると差別用語に聞こえた／貧困という言葉から非常にネガティブな印象を受けるから。

#### ○アンケートに対する意見

問9(8)がふしぎだった。／問11の(3)「もっとやり直しのできる機会」貧困が自らの失敗による現象のような表現だと受け取れ違和感を感じました。／貧困がどのような状況が詳しく理解できていないため問11の質問が難しくかんじました。／このアンケート内での「貧困」という言葉の使い方からはその本質をアンケートがとらえられていないように感じる。／貧困の範囲。たとえばその貧困になるにあたっての原因が与えられていない。／福祉のアンケートで、お金がないということだけが貧困だと言えるのか疑問に感じた／貧困だけでくれる問題なのだろうか？／貧困は、周りが助けるものより国の問題である。

#### ○その他

貧困の人もいるということがわかった／貧困についてももっと知るべきだと思った／貧困について考えさせられた／自分が思っているより貧困に相当するハードルが低く、身近なものであるかもしれないと思ったから。／おそらく同じ前提、問題意識を共有しているから。貧困が自分の隣にあったから。／言われてみれば少し不思議なことばだとは思いました。印象の押し付けがある。／貧しく困っているのは当事者だから、周りが言うと思議な感じがする／貧困という一個人の問題ではなく、社会全体が貧しいというような状態を想像してしまうため、個人の貧困状態というのは少し違和感を感じた。／一見、全ての事が貧困に思えたため／自分よりまずしい人が貧困と感じてしまうから。／子どもは親や環境のせいでやむをえず貧困になってしまっているから。／貧困の最低基準が上がっているから？／貧困というのはもう少し身近なものだと思っていたが遠すぎる。／貨幣から肉体、社会、精神のどれか？／貧困も裕福も唯の社会現象／個人生活の表象だ。貧困と裕福の差は何か？／不平等であることが存在していることがおかしい／いいえ／なんとなく



◎アンケートに対する意見・感想の自由回答

○アンケート全体へのコメント

貧困の種類が示されていたらもっと良かったと思える。／人を見ただ目で貧困だと決めつけるのはよくないと思う。一人では難しいことなのでやはり助ける人が必要だと思うしそういうスペースを設けてほしいと思った。／解答に15分必要で、記入に10分とられましたが、十分な記入ができないと思います。・アンケート用紙に統一感がないように思います。(表は「○」をつけて、裏は「丸をつけて」)／回答数が多いなと思いました。／(大学名)生だけではなく、他の大学の生徒や高卒の人もアンケートの対象にするべき。(大学名)に通うこと自体が一定水準の裕福さを持っていることを示していると思うので、それらを混合しない方が良いと思う／問7は、貧困かどうか(本人の趣向、地理)を含み、関係ないのではと思いました。また、それが貧困によるものかどうかの区別もつかないと思います。／「わからない」という選択肢があるのすごよかった。

○各質問項目へのコメント

問8について、「戦前」と「敗戦直後」では社会情勢が大きく異なると思うので、設問に少し違和感があった。／問9の質問の意図がわかりません。／問9(2)冷房設備も追加したらどうでしょう。問10 2と3までは選べるけどそれ以上は選べない。／問10の選択に「いずれでもない」が欲しい。／問10の選択肢はどれも共感できず○をつけませんでした。貧困は、人と人との繋がりが途切れてしまったり、心のよりどころがなくなってしまうことにより起こると思います。本人たちの不運や責任ではなく、幼少期からの色々な経験等成長する過程で色々…／問10に関して、私の考えは3に近いと考えたのですが、「社会にたくさんの不公平があるから」だけでなく、「貧困問題を社会的問題として個人で考え、その責任は、対象者本人でなく、貧困という家庭を作り出してしまふ社会自体に問題がありその問題を解決するべきであると強く考えている人が少ないこと」が

理由であると思いました。／問10がおもしろかったです。／問11、12に関して“貧困”という言葉があいまいなので、もう少し具体的な意味を与えてくれると、回答しやすいと思いました。／貧困とは「貧しくて困る」ことなので学校に通えているアンケートに答える人間はあてはまらない。よって問12(3)は意味があるのかとうたがう。そもそも都会なれしている人は、少し生活ができなくなっても田舎へとは行こうとはしない。依存している。だから貧困だ、なんだとさわぐが、アンケート制作者にとっての貧困とは都会人のことか田舎を基準としたものを考えたことがあるのかと聞きたい。日本全国で考えるなら視点の変更も必要かと思いますよ。／問14の選択肢に「ことばは知らなかったが、意味はおおよそ推測できる」というのが欲しかった。

## 6. おわりに

2004年から2006年に貧困観調査を行った青木は、その調査から「貧困という現象のイメージそのものが共有されていない」(青木2010:278)こと、「貧困の要因を二側面の『対立』ではなく『両立』で捉えている」(青木2010:278)こと、また「個人への貧困の『帰責メカニズム』を作動させる構造とドクサの世界の状態は、依然として生活保護にスティグマを免れさせない基盤を提供している」(青木2010:279)ことが明らかになったとしている。

今回の調査からは、貧困として最も強くイメージされるものは途上国や戦前の日本であり、医療や食べ物、電気やガスなど、生きていくために必須なものがない状態が貧困として高い割合で認識されていることが分かった。これらが「貧困」のイメージであることは概ね同意されていると言えるだろう。また、「貧困である人々がいる理由」として社会的な要因は非常に高く支持されたが、貧困から抜け出すためには個人と社会の両方の働きが支持されていた。貧困に対する社会の要因や責任が認識されているのは確かだが、貧困から抜け出すためには個人の努力も必要と捉える人も多

い。これは、貧困の要因や責任は、個人側と社会側の「対立」ではなく「両立」として捉えられているという青木の指摘とも重なる部分である。今回の調査により、以上のことが明らかとなったが、調査票の構成や先行研究との比較等、不十分な点も多い。また、対象も大学生に限定されていたため、より広い層に対する貧困観調査が今後必要であろう。

#### 注

- 1) 欧州委員会 (European Commission) により定期的に実施されている世論調査であり、Standard Eurobarometer, Special Eurobarometer, Flash Eurobarometer の3種類がある。  
(<https://ec.europa.eu/commfrontoffice/publicopinion/index.cfm/General/index>)
- 2) 埜 (2007) の資料に示された Catholic campaign for Human Development のホームページ内 (<http://www.usccb.org/cchd/povertyusa/povpulse.shtml>) に、Poverty Pulse 調査を見つけることができなかった。そのため、埜 (2007) に紹介された質問文を使用している。

#### 文献

- 青木紀 (2010) 『現代日本の貧困観—「見えない貧困」を可視化する』明石書店
- 青木紀 (2005) 「現代日本の「貧困観」に関する研究準備ノート」『教育福祉研究』11、67-96
- 岩田美香 (2007) 「シングルマザーの『貧困観』：母子生活支援施設利用者への調査結果報告」『教育福祉研究』13、75-90
- 岩田美香 (2008) 「社会福祉援助者の『貧困観』：母子生活支援施設職員への調査結果」『教育福祉研究』14、69-80
- 埜朋子 (2007) 「アメリカの貧困観」『教育福祉研究』13、13-25
- 藤原里佐 (2008) 「障害者の『貧困観』」『教育福祉研究』14、43-53
- Europe Commission (2010) Special Eurobarometer, Poverty and Social Exclusion Report: 12  
<https://ec.europa.eu/commfrontoffice/publicopinion/index.cfm/Survey/getSurveyDetail/instruments/SPICIAL/surveyKy/888/p/3>

(北海道大学大学院教育学院・修士課程)

[資料]

## 福祉に関する意識のアンケート

1. はじめにあなた自身のことについてお聞きします。

問1 あなたの学年を教えてください。

1. 学部1年生    2. 学部2年生    3. 学部3年生    4. 学部4年生    5. その他

問2 あなたの性別を教えてください。

1. 男性    2. 女性    3. 答えたくない

問3 あなたの専攻を教えてください。

1. 理系    2. 文系（福祉系以外）    3. 文系（福祉系）

問4 現在のあなたの暮らし向きについてお尋ねします。最もあてはまるものに一つ○をつけてください。

1. 大変ゆとりがある    2. ややゆとりがある    3. 普通    4. やや苦しい  
5. 大変苦しい

問5 15歳の頃のあなたの暮らし向きについてお尋ねします。最もあてはまるものに一つ○をつけてください。

1. 大変ゆとりがある    2. ややゆとりがある    3. 普通    4. やや苦しい  
5. 大変苦しい

※問6、問7は同時に行った別の調査のため省略

問8 「貧困」ということばを聞いて（見て）、以下の内容を思い浮かべましたか、あるいは思い浮かべますか。それぞれの内容について「1. はい」か「2. いいえ」のどちらかを選び、丸をつけてください。また、以下の内容以外に思い浮かんだものがあれば、「その他」の枠の中に簡単に記述してください。

(1) 戦前や敗戦直後に多く見られた日本の生活	1. はい	2. いいえ
(2) テレビや新聞等で知る途上国や戦災国の生活	1. はい	2. いいえ
(3) 現在の日本で見られる様子や生活	1. はい	2. いいえ
(4) その他		

問9 現代の日本社会で生きることを前提に考えて、貧困とはどのような状況を言うと思いますか。それぞれの文章について「1. 貧困である」「2. 必ずしも貧困とはいえない」「3. わからない」の中から一つずつ選び、丸をつけてください。

	1. 貧困である	2. 必ずしも貧困とはいえない	3. わからない
(1) 水道や電気およびガスがない			
(2) 住宅に暖房設備がない			
(3) 住宅にお風呂がない			
(4) 一年に一度程度のレジャーや旅行をする金銭的余裕がない			
(5) 緊急時に必要な最低限の貯蓄がない			
(6) 健康的な食生活ができていない			
(7) 医療機関に必要なときにかかれぬ			
(8) 社会あるいは地域とほとんどつながりがない			

問10 社会に「貧困にある人びと」がいる理由はなぜだと思いますか。以下の選択肢の中から、あなたの考えに最も近いものを一つだけ選び、その選択肢の番号に丸をつけてください。

1. その人たちが不運であり続けたから
2. 怠惰や、自制心の欠如があったから
3. 社会にたくさんの不公平があるから
4. 経済発展に伴う避けられない現象だから

問11 「貧困から抜け出す」方法として、以下の意見をどう思いますか。それぞれの文章について「1. 強く思う」「2. 思う」「3. 思わない」「4. わからない」の中から一つ選び、丸をつけてください。

	1. 強く思う	2. 思う	3. 思わない	4. わからない
(1) 我慢して節約した生活を送り、人より働くなど、結局は個人の頑張りなどの努力による				
(2) 個人が「貧困から抜け出す」には結局はその家族や親族の助ける以外に方法はないと思う				
(3) もっとやり直しのできる機会を増やすことが「貧困から抜け出す」ことを促すと思う				

問12 あなたは、日本における貧困の問題についてどう思いますか。それぞれの文章について「1. 強く思う」「2. 思う」「3. 思わない」「4. わからない」の中から一つ選び、丸をつけてください。(ただし、ここにおける「貧困」とは、物質的・経済的な意味とし、「発想が貧困」など精神的な意味は除外します。)

	1. 強く思う	2. 思う	3. 思わない	4. わからない
(1) 現在の日本において貧困は広く存在している				
(2) 現在の日本において貧困を軽減していくことは重要だ				
(3) 貧困の問題は自分と何らかの関わりがあると思う				
(4) テレビやネットの記事などのマスメディアを通じて、日本の貧困の問題について見聞きする機会がある				

問13 あなたは、このアンケートで使われた「貧困」ということばに違和感を覚えましたか。「1. はい」か「2. いいえ」のどちらかを選び、その選択肢に丸をつけてください。また、「1. はい」を選んだ場合、その理由をカッコの中に簡単に記述してください。

1. はい (理由： )  
2. いいえ

問14 あなたは、「相対的貧困」ということばを知っていますか。以下の選択肢の中から一つだけ選び、その選択肢の番号に丸をつけてください。

1. ことばを知っており、意味もおおよそ理解している  
2. ことばは知っているが、意味は理解していない  
3. ことばも意味も知らない

問15 本アンケートの内容について、感じたことや考えたことがあれば、以下に自由に記入してください。